

これからの猪猟

〔17回〕

田宮 治

極致の猪猟と猪犬芸

不動の信念を貫いて独自に創意工夫して、思いどおりの仔犬を作出し、思いどおりの猪犬に仕上げ、思いどおりの猪猟をしたい。その一念で人生を懸けて頑張り通してきた。そして、ようやく天下

一品の猪犬軍団が完成した。だから、いかなる大猪との激戦であっても勝つて撃ち獲れて当然なのである。

日本一の猪犬と猪猟道の完成を目指し、誰にも頼らず全く独自の手法で猪猟一筋で没頭してきた。その実践の中で、猪犬作りに欠かせない大切な要点や、猪猟完成に必要な事項を拾い集めてきたのである。そして、その要点一つひとつの体験から、検証して改善したものを集大成にしなければならな

いのである。

たかが猪犬や猪猟であつても、それを極致にまで仕上げた完成させた日本一の傑作であると宣言した以上、意地とプライドにかけて猪犬の凄さと猪猟の素晴らしさを示さなければならぬと思つてゐる。

そのためには、前人未到の猪猟の頂点までの道案内を実践して、その場その場での難所の越え方や凌ぎ方などを猪猟の作戦によつて、獵人の誰もが理解できるように発信し続けているのである。

私の信念は、猪猟のいかなる難所であつても、必ず乗り越えて見事に頂点に立つてみせることである。同時に、頂点までの道案内が良い道標となつて、狩猟界の道境をはね返し、「これからの猪猟」が活気づくよう前進する原動力になつてほしいのである。

基本的に物事の成功や完成は、失敗の繰り返しによつて達成されるものであるが、「これからの猪猟」を甦らせる快挙は、ただ一人の猪獵人がどんなに頑張つても簡単にできることではない。

誰かがこの状況に気付いて伝統猪猟を守り抜く努力をしなければ、猪猟を支える獵芸や獵道の構築どころか、狩猟そのものが消えてしまう恐れすらある。

すべての獵人が絶対に忘れてならない重要なことは、繰り返し繰り返し返し手を替え品を替え発信し続けてきた「猪犬の完成」や「これからの猪猟」の中で、サブイバル戦略そのものを見直して、大事な伝統猪猟を守り抜いて次世代に繋ぐことなのである。

しかし、狩猟界を取り巻くどの道も既に閉ざさり、狩獵人口は五分の一まで落ち込んでいる。この

逆境を乗り越えるためには、獵人自らが体を鍛え、獵技術や獵芸を最高のものにして、人犬一体となつてこの難局を乗り越えることこそ、狩猟界がこれから生き残る道なのである。

立ち止まつて思案したり人様や天の助けを待つより、獵人自らが一歩でも前進し独自の猪猟を断行し、心に残る猪猟を積み重ねることとで、一人でも多くの猪獵人の心に訴え続け、復活の狼煙を上げてすべての獵人の再結集を呼びかけることである。

ただし、生き残りをかけた猪猟の道程は八方塞がりの厳しい状況下にある。私は大好きな猪猟と猪犬たちを守り抜き広めるために、本誌で獵歴と極致の猪犬芸を発信し続けてきた。そして、最高の猪犬軍団を完成させたのである。私が何度も自慢気に「名犬だ、

一流芸だ」「日本一を目指した」などと言っているのは、「これからの猪猟」ではこのような一流芸の猪犬と最高の猪猟技術がなければ、堂々と実戦して生き残る名勝負はできないからである。

猪猟を志したからには、まず犬たちを可愛がって一流猪犬にすること。そして、いくら頑張っても

自身で極めた猪技術以上に犬芸が成長することはないので、それを極致まで高めるためには自身も極致の獵人になることと発



マロ号、ヨシ号、シロ号の見事な獵芸で大猪を噛み止める

信しているのだ。

要するに「これからの猪猟」の中で、最も重要な生き残りの作戦とは、狩獵人口が減少しようと、誰にも頼らずに自分と犬たちの力だけで大猪でも簡単に撃ち獲り、心から楽しめる安心安全で納得できる単独猪猟に邁進することなのである。

この猪猟の流れは、一見すれば誰もが簡単にできそうな単独猪猟であるが、いつどこでも犬たちと自分の力だけで、思いどおりの猪猟を実践するとすると、人犬ともに並大抵の実力では戦えない。私は人生をかけて、心に残る極致の猪猟をいつでも思いどおりに実践できるまで、成長させ完成したのである。

その成長を極限まで高める条件となるのが、超一流芸の猪犬が揃っていることなのである。超一流芸の猪犬さえいけば、猪との対戦時に犬たちの相性をそれぞれ見極めて、総合力でどんな大猪にも完勝できるよう、犬群の頭数(三、四頭)を調整すれば上手に実践できるようになる。

そうすれば、無理なく安心して猪猟を実践していけば最高の結果が残せるのである。

このように、いざ実戦の場では、猪跡をよく検証した上で予想どおり猪に打ち勝つ態勢で犬群を上手に活用していくのである。この犬群の上手な活用こそ、主人(猪獵人)の大事な責務であり、技量でもある。

ちなみに、私は獵場に立つと、まず猪跡をよく見て、この猪なら、鳴き止め・噛み止め自在で、一頭でも十分勝負できる獵芸の犬三頭の組み合わせで大丈夫だと思つて戦っている。

ここで一番大切なことは、豊かな猪獵体験と超一流芸の猪犬(持ち駒)軍団なのである。この持ち駒軍団の個性と特長を十分活かして、軍団の総合力が最大になるよう、一頭(マロ号)から場合によっては四頭くらいまでの犬たちをバランス良く組み合わせ、絶対に勝つ布陣で実践している。この戦略の重要点は、大事な愛犬たちをケガや死亡事故から守るため、どんな大猪との激戦でも必

ず完勝することである。それと同時に、安全安心な猪猟を実践することにある。

さらに、犬たちが命がけで止めた猪なのだから、どんな悪条件でも決して逃がさず、主人は全力で猪を撃ち獲つてやることである。例えば、犬たちが止めた猪を逃がしてばかりいたら、どんなに素質の良い猪止め犬であっても、必ず追い犬となってしまう。

だから、止め猪を必ず撃ち獲りさえすれば、主人の気持ちに愛犬たちはしっかりと受け止め、どんな激戦下であろうと犬たち自身の判断で全体の協調性や戦術まできつちりと読み取ってくれるはずである。

押し並べて、最高の猪止め芸は激戦を必ず勝ち続ける戦いの繰り返すと、素晴らしい結果を積み重ねることで、汗と涙の大輪が見事に開花するのである。

ここで、分かっていたいただきたいことは、猪犬を見事に仕上げた上で、その一流猪犬群がいなければ、どんなに頑張っても、極致の猪猟を実践することなどできない

い。だからこそ、この最高の結果を積み重ねること、どん底の狩猟界に一石を投じ、それを猪獵人に訴え、何とか逆転の発想を呼び起こしてもらいたい。

そして、猪獵全体が活気づき、元気で楽しい本来の猪獵を取り戻して、夢と希望の持てる猪獵、つまり未来にまで繋げていくことのできる「これからの猪獵」にしたのである。

実践！ 俺流猪狩り

さて、私の体験から現状の狩猟界を見渡すと、その荒廃は恐ろしいもので、すべての獵人が諸手をあげて狩猟界の再構築に乗り出さない限り、狩猟の再現などあり得ない状況になってきている。

狩獵を続けていくには苦勞ばかりが多く、その上、法規制が強まり、やればやるほど多くの困難が待ち受けている。そんな状況に耐え兼ね、狩獵者が五分の一くらいにまで減少してしまった。

さらに、狩獵の要となる獵犬飼育の犬舎までも、法規制の強化の

影響で経営が苦しくなってきた。それに追い討ちをかけているのが消費税と物価高である。

以前はサイエンスダイエットの「グロース」「ユーカヌバ」を与えていたが、今や国産ドッグフードさえも、消費税率の引き上げと同時に八^キ袋が六^キ・五^キ袋となつて同価格である。だからといつて仔犬の値上げは許されない。

狩獵界の悪循環は、猪獵の重要な立役者である犬持ちの勢子長にまで波及してきている。良い猪犬の入手が困難になつたばかりか、三、四頭の猪犬を飼い続けることさえも難しい状況に陥つてきている。

最高の猪犬を完成して、それを守り抜いて未来まで繋げていく対策を打たないことには、いくら大好きな猪獵や大事な猪犬であつても、いざれ犬舎そのものが消え失せてしまうことになる。

もし現実には猪犬が消滅してしまふと、どんな達人でも納得できる猪止め犬獵はできなくなる。それどころか、失つた一流猪犬たちを再度作出し完成させるまでには、

気の遠くなるような歳月と莫大な資金が必要となる。

特に極致の猪獵や最高の猪犬の完成となると、その挑戦に費やす労力や苦勞も半端なものではない。

私が発信し続けている猪獵の成長戦略は、ぞつくり揃つた名猪犬軍団の活躍が原動力となつていく。それ故、現在の状況が悪化して前記の理由で肝心要の猪犬が消滅してしまふと、その損失は計り知れない。

この問題に正面から立ち向かつていくには、行政や人手に頼るのではなく、独自の戦略で中央突破を図つていくしかない。その戦略は難戦であるので、まずぞつくり揃つて完成した猪犬軍団の総力を結集し、最高の猪獵を実践していくことである。

これこそ、猪獵の真骨頂であり、どんな状況下であろうと、一人の力で思いどおりの猪獵を実践し、十分に楽しみ納得できる成果を積み重ねてきたことを証明したのである。

難局の打開や逆転の発想など、

どんなに騒いだところで、一人の力で立て直せるものではない。それより今ある自分をしっかり鍛え上げ、一歩でも前進することである。

起死回生の対策は己の胸三寸にあり、その勇気や根性を磨くのは自分以外にないのだ。

猪獵の順道（大道）を堂々と突き進むための猪犬たちを、大事に守り鍛え上げるのも自分である。この犬芸であれば、極致の猪獵ができ、一人でも十分楽しんで安心して納得できる単独獵がいつでも実践できる。

そのことを理解し、誰もが真似て実践してみたくなるような起死回生の一助となるよう、今できる最高の猪止め犬獵を押し出しているのである。

この素晴らしい激戦を何度も展開し、良い結果を積み重ねること、狩獵界のどんな状況でも克服し、未来に繋げる成長戦略になつていくのである。そして、「これからの猪獵」を限りなく押し上げ、頂点に立つ大道であることを証明したい。

（つづく）